

NEWS LETTER

小村寿太郎侯東京奉賛会 広報誌

VOL.6

Contents

- ・現役外相 小村寿太郎侯飫肥墓所初訪問
- ・連載 小村寿太郎侯をめぐる人びと その1 原 敬
- ・小村ゼミナール「外交官小村寿太郎の精神・信条を大いに語る」
- ・小村記念館 館長を振り返って
- ・小村寿太郎侯青山墓所案内板設置基金の募集
- ・戦艦三笠と猿島を巡る親睦バスツアー

2017
夏季号

平成 29 年 5 月刊行

ごあいさつ

歴史に・・・たら・・・れば は禁句だと言われています。この事について私の思いを述べてみます。

日本の幕末頃は、世界は弱肉強食の時代でヨーロッパの列強が市場の拡大に血道をあげていました。このアジアにおいて隣の清国は格好の標的になりました。このような事態をみた日本人は大いに刺激を受け明治維新を断行しました。しかも世界はヨーロッパが中心でアジアの東のちっぽけな島国日本など眼中になかったという時代です。

このような時代背景のなか、世界の陸軍最強国ロシアと干戈を交え、これを撃ち負かし世界を驚かせました。この時代のこの国の人々の思いは世界の一等国「坂の上の雲」を目指していました。明治時代を生き抜いた小村寿太郎もその一人でした。しかもその目指した人々の中核にいたのが小村侯で明治の日本を支え作りあげました。もし小村侯なかりせば・・・と思うのは私だけでしょうか。にも拘わらずその存在、功績はあまり世に知られていません。そういう意味で小村侯の顕彰活動をしているこの会の存在、役割は大きいものと思います。今後とも皆様の更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とします。

会長 川 村 蒼 市

岸田文雄外務大臣挨拶要旨

平成 28 年 9 月 3 日（土）、日南市が誇る明治の外交官、小村寿太郎侯のゆかりの地を岸田文雄・外務大臣が視察しました。現職の外務大臣が同市を訪れるのは初めてです。

皆さん、おはようございます。ご紹介にあずかりました外務大臣の岸田文雄です。今日は、武井俊輔外務大臣政務官に案内をしてもらい、そして、日南市の崎田市長さんをはじめ、地元の皆さんのご厚意によって、この小村記念館を見させていただきにまいりました。

地元の皆さんは、もう十二分にご案内のところかと思いますが、小村寿太郎侯は日本の外務大臣を2回に渡って7年4カ月お務めになられました。ちなみに私はですね、日本の外務大臣を3年9カ月務めています。それでも戦後の外務大臣としては、長い方から3番目。戦後 47 人の外務大臣の中では長い方から3番目ということです。小村寿太郎侯は、その倍近い7年4カ月の長きに渡りまして、外務大臣をお務めになられました。

そして、長さだけではなく、その間の業績、日本の外交史に残る素晴らしい輝かしい業績を残されてこられました。当時、不可能と言われた日本と英国との日英同盟の締結にご尽力され、また、日露戦争のポーツマス講和会議において努力をされ、戦争の講和条約を締結されました。また、明治日本にとりまして最大の外交案件でありました、当時の不平等条約解消のためにご努力され成果を上げられました。こうした輝かしい業績を残されました。我々外務省に縁のある人間としましては、まさしく歴史に残る大「外務大臣」として大きい存在であります。（一部抜粋）

（日南市「こちら広報室」から転載）



お陰様で当会の広報誌「NEWS LETTER」もVol. 6を刊行するに至りました。このあたりで、何か目玉になるシリーズ物はないかと模索していたところ、小村侯と関わりのあった人物を取り上げる連載物に決定しました。その第1号には、当会で教授格の博識の持ち主で岩手県出身の平野恵一氏が最適任であると編集委員会で全員一致しました。早速執筆をお願い申し上げて、直ちにご快諾を賜り、めでたくスタートの運びとなりました。

06

下 荳 直 樹



小村寿太郎侯をめぐる人びと その1 原 敬

連載

会 員

ひらの けい いち
平 野 恵 一

岩手県出身

日本外交史に燦然と輝く巨星、小村寿太郎侯とほぼ同時代に活躍した岩手の先人、政治家原敬（1856～1921）、法学者菊池武夫（1854～1912）と外交官高平小五郎（1854～1926）について、小村侯との関係に力点を置き、先行文献に教えられながら綴ってみたい。

最初は、明治維新・戊辰戦争で官軍と戦い、賊軍となった旧藩出身者で初めて、即ち、東北で最初の内閣総理大臣にまで上りつめた原敬を紹介する。

原は、南部藩 20 万石の家老職の家柄の次男として生まれるが、13 歳で明治維新を迎え、生活は一変する。16 歳で上京、某私塾に学ぶが学費が続かず退学。学費不要のフランス系神学校に学び、洗礼を受ける。その後、宣教師の学僕として主として新潟地方の布教に従事。20 歳で官立の法学校（東京大学法学部の前身）に入学。しかし、卒業間近に寮生に対する食事の改善を要求した「まかない事件」の責任をとって退学。その後、郵便報知新聞記者となるが、大隈重信が同紙を買収し、改進黨の機関紙化したことに反発、外務省に転じ、天津領事、フランス公使館臨時代理公使を経て、陸奥宗光農商務大臣と出会い、その秘書官となる。陸奥の大臣退任に伴い一旦官界を退くが陸奥の外務大臣就任に伴い、外務省通商局長、外務次官（後任は小村侯）となり、陸奥外交を支える「三羽がらす」の一人となる。朝鮮国特命全権公使（前任小村侯）。陸奥の死去により再び新聞人となるが、伊藤博文の誘いに従い、立憲政友会結党に参画、幹事長となる。以後、党勢拡張に邁進。内務大臣・現 総務、厚生労働、国土交通の各省と、警察庁、国家公安委員会の権限を有する大臣を経て野党時代の政友会総裁。総選挙で第一党となり、日本初本格的政党内閣を組織する。その外交政策は、国際協調主義を貫き、第一次世界大戦の講和条約や国際連盟を推進する。また、皇太子、後の昭和天皇の外遊を実現。第一次世界大戦後世界の強国となったアメリカ合衆国を中心とする世界情勢に対応するため、アメリカが提唱するワシントン国際会議参加を決定、小村外務大臣当時結ばれた「高平・ルート協定」とコインの裏表と称される中国に関する「九カ国条約」締結への道を開くが、会議が開催される直前、東京駅頭で暗殺される。

原は、近現代政治の第一級資料と称される膨大な日記を書き残している。

『原敬日記』には小村侯との絡みは数少ないが、小村侯と高平小五郎の最大の功績の一つである日露講和条約について次のような記述がある。

1905・明治 38 年 10 月 10 日の日記「鎌倉からの帰路偶然伊藤侯と大船より同車せり、他に乗客もなかりしに因り種々談話をなせしが（中省略）同侯の見るところにては露国全権は多少の償金は払うの意思なりし事疑いなく、彼らより樺太の折半により多少の賠償をなすべき意思を漏らしたるに、日本全権拙なるにより遂に之を逸が如し、自分全権として往かば必ず多少の賠償をえたるなり（以下省略）」（『原敬日記』原奎一郎編 乾元社 1951 第二巻続編 p282）。

当時原は政友会の実質的代表として、第二代総裁西園寺公望に代わって桂太郎総理と講和条約締結後の政権について話し合っていた。政友会は政権移譲を条件に講和条約について表だった反対はしないこととしていた。



これを読むと、外務大臣小村侯とアメリカ特命全権公使高平が講和会議の全権となって締結した条約について、当時枢密院議長の伊藤と同じ考えを原も持っているのではないかと読み、間接的ながら原の胸中を知ることが出来る。また、伊藤は初代政友会総裁から天皇側近の枢密院議長として、講和条約締結について、小村・高平全権からの請訓にたいし、「賠償金なし」で締結するよう訓令することを了解したひとりでもある。政治の裏の怖さがにじみ出ている。

原の小村侯観は、小村侯の葬儀が行われた日の日記に端的に示されている。丁度、原が第二次西園寺内閣の内務大臣に再任し、総理の座が射程圏内に入ってきた頃である。

1911・明治44年12月2日の日記「小村遂に死去し本日葬儀を営みたるに因り臨場したり、彼も失意の時代は多かりしが、陸奥伯彼を引きあげ清国の一等書記官となしたるにより運を開き、官僚系の重用するところとなりて遂に侯爵にも陞（のぼ）りたるは彼に取り幸運の事と云うべし」（前記『原敬日記』第四巻 p404）。なお、原は生涯、爵位を辞退し続け、平民宰相と親しまれた。日記中の「遂に」は、情報通の原が当時不治の病とされた結核に小村侯が冒され重症であったことをつとに知っていたことを示すものであり、「官僚系」とは具体的には元老山県有朋系をさす。山県は、藩閥政治打倒の党人派政治家原の政敵であった。

原は、美辞麗句のない率直な言葉で小村侯に対して、政治的立場には距離を置きながらも、自他共に認める陸奥の後継者として、特に「彼も」と記して己と重ね合わせ、悲しみを越え、あっぱれな人生だったと敬愛の情を日記で吐露している。

小村ゼミナール

『外交官小村寿太郎の精神・信条を大いに語る』

当会の目的に「小村寿太郎侯の遺徳を顕彰するとともに偉業を後世に伝承し、人材育成に……」と謳われております。講演会やセミナーは当会の事業の主要業務であり、偉人・小村寿太郎の生涯を題材に交流を深めるべく、毎年企画実施してきております。「小村寿太郎―若き日の肖像」が出版されるに及び、平成27年に、シリーズ教養講座『小村寿太郎に学ぶ』と題し、「小村の幼少期」～「東京遊学・ハーバード留学」～「外交官時代」まで、即ち彼の生涯を4回の講義中心のセミナーで展開しました。翌年の28年も、『若き日の肖像』をベースに「幼少期から遊学で」「ハーバード留学～外務省前期まで」「外交官としての充実期」の3回シリーズを当会の若き解説者のリードで実施しました。

しかも、ゼミナール方式で受講者の皆さんが事前にテキストを読み込み、主体的に意見や質疑をしながら、講師が解説していく方式を採り入れ実施しました。以上、2年間の実施を通じて、感じることは、我々郷土人でも小村のことをあまり知らないということです。我々自身もそうですが、小村のことを郷里で学校や親も多くのことを語ってくれないまま、関心が薄かったような気がします。

小村の歴史から学ぶことは、今の自分のありようや将来への気づきに参考になるのではないかと考えております。

小村の歴史から、「学び」によるインテリジェンスの大事さと、多くの人との出会いの重要性を学ぶことができます。石川啄木が『訛り懐かし停車場にそ（訛り）を聞きに行く』と詠ったように、『じゃがぁ、じゃがぁ』と懐かしい田舎弁の雰囲気の中で語り合いたいものです。多くの方のご参加を期待しております。

（桝田 記）

■開催の主旨

『小村には並外れた精神の広さがあっただけではなく、物事の奥底を理解するために、あらゆる側面を考慮に入れる忍耐強さがあった』とは、小村の精神・信条に対するお雇い外国人が語った驚きの言葉である。外交官活躍の原動力となった精神・信条はどのようにして形成されたのか。幼少期の振徳堂・稲沢塾での“学び”やその後の東京遊学・アメリカ留学に至る“人脈”に焦点を当て大いに語り合う。

■開催日時 平成29年7月22日（土） 10:00～16:00

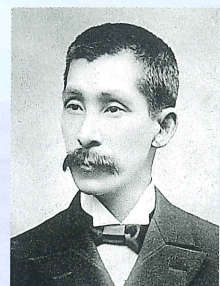
■場 所 ジャパン・プロテクション株式会社 三階会議室

■解説者・情報提供者 長友 禎治 氏（日南市役所生涯学習課 文化財専門担当官）

■受講申し込み先 **FAX 03-6659-3084**

E-mail:kanemaru.hiroshi@orchid.plala.or.jp

6月30日 までにお申し込みください



小村記念館館長を振り返って

郡 司 均



平成 20 年 4 月に国際交流センター「小村記念館」に就任しましたが、本年 3 月をもって退職いたします。その間、小村寿太郎侯東京奉賛会の川村会長をはじめ役員の方々には大変お世話になりました。会員の皆様方は、青山霊園の墓所清掃をはじめ、侯の功績を後世に伝えるための様々な活動をされています。

特に記憶に新しいことは、小村侯の外務大臣時代を秘書官であった本多熊太郎氏のご令孫（京都在住）の長年の思いを、実らせて頂いたことです。

これは、明治神宮外苑にある聖徳記念絵画館の展示壁画 72「日露講和談判」の絵画の人物説明の修正が、東京奉賛会の金丸事務局長等のご尽力で、昨年 6 月に受け入れられました。このことにより、「本多熊太郎氏」の人物説明表の訂正と今まで洩れていた随行員「小西孝太郎氏」が加えられました。同時に、小村記念館の絵画の説明表も訂正いたしました。ご令孫も大変安堵されたようです。

また、あまり知られてませんが、日英同盟締結 111 周年 2013 年（平成 25 年）に、日本の某団体によって、英国ロンドン郊外の Bedgebury 国立公園に桜 111 本が植樹され、桜並木ができました。当時小村外務大臣と直接交渉した英国側の外務大臣 Lansdowne 侯爵の長男 Kerry 伯爵も出席されたそうです。私も小村記念館館長として小村幸子様と連名で親書をお願い致しました。

ところで、飢肥城下町保存会事務局長として平成 21 年 4 月から地元商店街の皆さんと取り組んでいる「飢肥城下町食べあるき・町あるき」も大変人気で、商店街の活性化に役立っています。4 月には、更にリニューアルしたマップで、スタートすることになっています。

そして、4 月からは後藤廣史氏が、私の後任の館長として就任致します。学芸員の資格を有する素晴らしい方ですので、引き続きどうぞよろしくお願い致します。

長い間大変お世話になり有り難うございました。東京奉賛会の益々のご発展を祈念致します。

注 1) 小西孝太郎 ポーツマス会議時の随行外交補佐官。東京工業学校卒業後、帝国製麻を経て 明治 36 年外交官試験首席合格で入省。仏語が堪能で、その能力をかわれ安達肇一郎書記官の補佐として随行員に。三重県出身。

注 2) 本多熊太郎 小村外相就任と同時に赴任地ベルギーから呼び寄せ秘書官に任命。小村外相からは緻密な頭脳と堅実な性格を評価されている。後に小村外交を称揚、生涯その顕彰に努めた。「魂の外交」の著者。明治 31 年外交官試験首席合格。和歌山県出身。
※お孫さんの北垣由民子さんからは多くの貴重な資料や写真を小村記念館に寄付を戴いている。

小村寿太郎侯青山墓所案内板設置基金の募集について

明治の偉大な外交官、小村 寿太郎（こむら じゅたろう、安政 2 年 9 月 16 日（1855 年 10 月 26 日）～ 1911 年（明治 44 年）11 月 26 日）は、日本の外交官、政治家で外務大臣、貴族院議員などを務めた侯爵であります。

小村侯は、日英同盟の締結、日露戦争後のポーツマス条約の締結、幕末以来の不平等条約の解消による関税自主権の回復など日本の外交史上輝かしい功績を残しました。

遡って、小村寿太郎が幼少の頃学んだ飢肥藩の藩校振徳堂は宮崎県日南市飢肥に現存し、また、同市きつての桜の名所竹香園（ちっこうえん）の丘の上には、彫刻家朝倉文夫の手になる小村寿太郎侯の銅像が、太平洋の遥か彼方のポーツマスを見据えるような視線を送って建っています。

私達小村寿太郎侯東京奉賛会は、このような郷土の偉人を誇りとし、業績の顕彰にも努めていますが、そのお墓は、青山霊園（東京都港区南青山 2 丁目の都立霊園）にあります。年に 5 回の墓掃除、参拝を行っていて、霊園内には大久保利通、乃木希典、北里柴三郎等の政治家、科学者、芸術家等の有名人、著名人の墓が数多くあり、桜の名所でもあるので、参拝者を含め、大勢の人が訪れています。

このような中で、立派な鳥居を擁する小村侯の墓は目立ちますが、墓前には何の案内板もないため、通りすぎる人達から数多く問い合わせがあります。こういう方達の道標としても、また、当奉賛会の顕彰活動の一環としても案内板の設置の必要性を痛感しているところであります。

青山霊園の管理者である東京都から既に設置許可を得ていますが、これが実現しますと、青山霊園第 1 号の案内板ということになります。

ただ、設置に当たりましては、当方だけでなく、皆様と一緒に設置作業もしたいと考えていますし、また、資金面においても是非ご協力を賜りたいものをお願い申し上げます。（1 口千円で 1 口以上 目標金額 50 万円）

戦艦三笠と猿島を巡る日帰り旅のお誘い

小村侯に纏わる縁の地を訪ね、会員相互の親睦を深めるための日帰り旅行の 4 回目。今回は横須賀港に停泊している戦艦三笠の船内見学（案内付き）をメインにその周辺を巡る旅を計画しました。猿島から猿島港に渡り、横須賀港に帰港します。海からの横須賀港には米軍の基地も見えます。又、戦艦三笠の船内では思いがけない小村侯との出会いが期待できそうです。ぜひ楽しい意義ある 1 日になりますようにお知らせにお声かけしていただいて、誘いあってご参加くださるようご案内いたします。

6 月 7 日（水曜日） AM8:15 出発 集合場所：新宿西口工学院大学前
参加費：9000 円 定員：40 名 ※定員になり次第締め切り 5 月 20 日まで

小村寿太郎侯東京奉賛会

〒130-0026 東京都墨田区両国 1-14-10-801 電話 03-3846-9030 FAX 03-6659-3084

E-mail: kanemaru.hiroshi@orchid.plala.or.jp 振込先：ゆうちょ銀行 店番 008 普通預金口座 1191854 名義 小村寿太郎侯東京奉賛会